



有意義な夏休みにしよう

夏季特別指導も7月31日で終了します。そして、いよいよ夏休みになります。夏休みは、それぞれの学年にとって重要な時期です。

1年生は、高校に入って初めての夏休みです。昨年までと同じような感覚ではいけません。苦手科目の克服や基礎固めをするなど有意義な夏休みを送ってください。自学自習のスタイルを確立することが大切です。

2年生は部活動の中心として、また学校行事の中核として多忙な日々を過ごしていることと思いますが、それだけに効率よい学習を心がけてほしいものです。例えば、自身の苦手な教科・苦手な分野を集中的に復習することなどが考えられます。

3年生は、勝負の夏です。三者面談を済ませた生徒も多いと思います。自分の志望校合格には、何が、どれだけ足りないのかを担当の先生に聞いていると思います。「夏を制するものは受験を制する」と言われます。暑い夏ですが、気持ちを奮い立たせて、夢に向かって頑張っていきましょう。

また、2年生でグレードアップゼミに、3年生で郷中ゼミに、自主的に参加する生徒も多数います。この夏、ひとまわり大きくなってくれることを期待します。

個別試験で英語を課す大学増加

国立大学の個別試験（2次試験）で英語を新たに課す大学が増加しています。2016年度入試では、山形大、茨城大、千葉大、岡山大、佐賀大、長崎大、鹿児島大です。

鹿児島大学で新たに英語が課される学部は、理学部、工学部、農学部、医学部（保健/理学療法）、水産学部です。配点はそれぞれで異なるので各自で調べて下さい。工学部のみ詳細を掲載しておきます。

	国語	地公	数学	理科	英語	合計
必修	100	50	200	200	150	700
個別			300	150	100	550
合計	100	50	500	350	250	1250

理系学部も英語のウエイトが上がりました。早めの対策をしましょう。

学部学科研究会迫る

7月31日に、2年生を対象とした「学部学科研究会」が行われます。今年は13講座を開講し、大学・大学院の先生方を本校に招いて、90分の講義をしていただきます。実際に、大学・大学院の講義を受けることによって、高校卒業後の進路を考えるヒントにしてください。

No	大学名	学部名	職名	講師名
1	熊本	薬	准教授	本山敬一
2	熊本	工	教授	鳥居修一
3	九州工業	工	名誉教授	坂田一矩
4	鹿児島純心	看護	講師	山崎智子
5	鹿児島	法文	教授	大前慶和
6	鹿児島	法文	教授	太田一郎
7	鹿児島	法文	教授	森尾成之
8	鹿児島	教育	教授	濱崎孔一郎
9	鹿児島	農	准教授	大久津昌治
10	鹿児島	医	講師	河原康一
11	九州(大学院)	芸術工	准教授	田上健一
12	志学館	人間関係	准教授	鈴木雄清
13	九州	理	准教授	高田敏恵

学習室を利用しよう

8月1日から8月16日までは、夏季課外も無く完全な夏休みとなります。自分で計画を立てて、しっかりと課題や弱点教科の克服に努めて下さい。後期の後半は、始まってすぐに前期末考査があるのでその対策も必要です。勉強をしたい人のために、その期間も学習室を開けます。積極的に利用して下さい。

期間：8月1日～16日

時間：8：30～16：30

ただし、8月1日と2日は午後のみ開館となります。利用者は無言で学習し、消しゴムのカスは専用の箱を利用するなど、きれいに使って下さい。昼食の際は視聴覚室を利用して下さい。

【3学年部から】

1 51期生の現状と課題

(1) センター試験まで、半年を切って…。

8月1日(土)時点で、来年1月16日のセンター試験まで168日。すでに半年を切っているわけだが、諸君の調子はいかがだろう。夏季課外も一段落という時期、《夏を制する》ことはできているだろうか。暑さの中、身体的にも大変なのはわかるが、全国約50万のライバルの中には受験勉強をバリバリ進めている者が確実にいるであろうことを肝に銘じておいてほしい。

先日、浪人している皆さん(諸君の先輩である)の現況を聞く機会があった。中には学力が伸びている者もいるが、意外と「変わらない」者もいることに驚いた。「浪人すれば何とかなる」という夢を抱いている者がいたら、くれぐれも注意してほしい。すなわち、現役の今、決めるべし!

7月15日・16日の両日はクラスマッチで盛り上がった。どの競技においても気合い、気迫に満ちたその姿は、下級生を畏怖せしむるに十分であった。総合優勝は逃したものの(残念!), 諸君らのエネルギーを頼もしく思った次第である。このエネルギーを受験勉強に最大限向けることができれば、必ずや素晴らしい結果をもたらすだろう。

(2) 放課後補習、終了。放課後自習始まる。そして「夏休み」。

7月14日(火)をもって、前期の放課後補習が終了した。基本的には各自の弱点補強を目指す基礎講座であったわけだが、終わってみてどうだろうか。新たな疑問が起こった者は、質問など積極的に行い、早めに解決しておいてほしい。

今年からの新しい企画として、放課後自習が始まっている。クラス一丸となって励まし合いながら受験勉強に取り組む、というもので、8月以降も続けることになっている。大変だ、と思っている者もいるかも知れないが、1分1秒を惜しむべき現在、やらねばならぬことをやっているだけである。是非、切磋琢磨しつつ積極的に取り組んでいただきたい。

国語・数学・英語についてはそろそろ仕上げの時期であるが、自信はいかがだろうか。8月1日(土)～16日(日)は、学校での補習こそないが、この時期こそ夏の天王山と気を引き締めていただきたい。各自スケジュールを立てていることと思うが(「マトリックス」参照)、与えられた課題を消化することはもちろん、それぞれ設定した、自分に必要な学習内容をぜひやり遂げてほしい。本番直前は誰でも本気になる。夏のこの時期にこそ本気になってほしい。今年の「夏休み」は休めない!

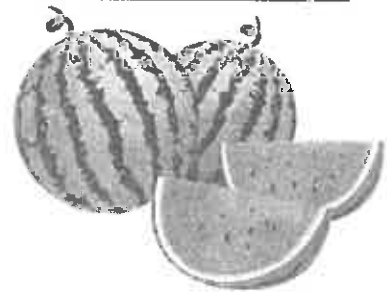
2 8月の進路関係行事

(1) 前期後半開始(17日)

※17日・18日は0限なし。19日～25日は0限自習。

(2) 小論文講演会(18日朝日子)

(3) 前期末考査(21, 22, 24, 25日)



8月には模試はない。17日(月)から通常授業。

18日(火)の朝日子は、7月7日(火)に受験した小論文模試を題材に、小論文講演会を実施する。毎回言うが、小論文は付け焼き刃では成功しない。日頃から自身の希望分野に関する情報を収集して、今何が問題なのか、何が論じられているのか、アンテナを立てておきたい。

前期後半が始まったその週には、早くも前期末考査が実施される。ということは、16日までにある程度の考査準備がなされているべきである。考査範囲一覧もすでに配布済みであるのはそういうわけである。この考査の成績は、大学へ示す諸君の「調査書」に反映される。つまり大学受験の一環となる考査だと認識したい。次から次へとハードなスケジュールに感じられるかも知れないが、気力・体力を整えて乗り切っていってほしい。「出来ない」と諦めたときは終わりである。

—「困難は分割せよ」— (出典:井上ひさし「握手」)

【2学年部より】

『不合格体験記』を読んでみよう！

私は、高校3年間勉強に真剣に取り組めていなかったように思う。特に1・2年の頃の勉強はひどかった。友だちと遊ぶことや部活のことばかりを考え、勉強はテスト前にすればよいと考えていた。そして気がつくアツという間に3年生。部活を引退した後は、ヤル気満々であり、気合いも十分であった。中央高校に入学して初めて本格的に勉強をしたように思う。1・2年の時にサボっていた分、他人よりも努力はしたつもりだった。夏が終わると成績は確かに伸びた。やっただけの力はついたのだ。自分が本気を出せばこんなに力があるのだと自分の力を過信した。この伸びなら1月のセンター試験までにどれだけ伸びるのだろう…と、そんなことを考えていた。

しかし、9月から私の成績は、まるで神様から見放されたように伸びなくなってしまっていた。9月の時点で自分の方が勝っていた友だちに模擬試験を受けるたびに追い抜かれていく。どれほど自分が無様で滑稽だったことであろうか…やってもやっても抜かれていく。センター試験まで1か月を切ったあたりからグングンと成績を伸ばしていく友だちがうらやましく思えるくらいだった。

なぜ？ 周りと同じように受験勉強をしているのに自分だけ伸びないのだろうか？ 必死に悶え苦しんだあげくに自分なりに納得のできる答えがでた。それは1・2年の時の基礎力がしっかり身につけていなかったから、受験後半になって点数を伸ばせなかったということ。スカスカ穴の空いたバケツにいくら水を注いでも水が溜まることのないように、基礎という基礎がどの科目においても穴だらけだったのだ。この答えがでると時を同じぐらいに受験した全ての大学に不合格を突きつけられた。…（中略）



私は今、予備校で必死になって基礎力を身につける努力をしている。もう一度教科書の例題や教科書レベルの長文や文法事項のおさらいに勉強時間の多くを割いている。1・2年の穴埋めをしているのだ。予備校で授業を受けながら1・2年の頃の自分に腹が立ってしょうがない。自分のように遊びと部活だけに夢中にならず、早くからコツコツと受験を意識して頑張っていた友人たちはみんな自分の周りから離れていった。こんな悔しくて寂しい想いは、生まれて初めての経験だ。来春こそ志望大学に合格できるように、教科書を1つ1つ潰していきたい。

（北予備から送られてきた50期生の作文より）



夏季休業のタイミングでの進路だよりである。下手な文章ではあるが、大学時代のある長期休暇のことを書こうと思う。

大学時代はある語学を専攻していた。今考えると教授陣は大御所ばかりで、もっと真面目にやっていたと後悔しきりなのだが、そのなかでとびきり大御所の K 先生が授業中に「語学は、長期間だらだら学習するより、短期間集中で学習するほうが身につく。」という趣旨のことをおっしゃった。1日8時間くらいの学習を1ヶ月くらい続けたほうが、だらだらと1年2年学習し続けるよりはるかにしっかりマスターできるという内容だったと思う。「そんなものなのかなあ」とそのときは聞き流していたのだが、その後本屋で立ち読みした「外国語の学び方」の類の本にも同じようなことが書かれている。その横の棚には「〇〇語四週間」なる本が並んでいて、まえがきを読むと「信じられないかもしれないが、この本で学べば四週間でこの言語を習得できる」などと書いてある。「うそつけ」と思いながらその場はそれで終わり、またいつもの（くうたらな）学生生活を続けていたわけである。

ところがある長期休暇を迎えたときのこと、この「短期間集中語学学習」のことをふと思い出した。たぶんよっぽど時間に余裕があったのだろう。「よし、挑戦してみるか」となった。選んだ言語は専攻以外の全く経験のない言語。かねてから「面白そうだ」と思っていた、それだけの理由で選んだ。早速本屋で「〇〇語入門」というカセットテープ付きの教材と辞書を購入。それから毎日、土日も朝から夜寝るまで「それだけ」をした。テキストは本文をそのままノートに書き取り、例文は暗唱した。発音を覚えるべくカセットに続けて下手な発音を繰り返した。だいたい1ヶ月ほどでテキストの最後まで行き、その言語の基本的な知識を身に付けることができたと思う。辞書を引き引きではあったが、原文を読めるようになったときのうれしさは格別であった。

そのときに思ったのが、言葉を覚えるのに一番大事なのは「自分のやる気・モチベーション」であるということと「語学は1人でも学習できる（あくまで基本的なレベルの話だが）」ということ。

さて、君たちはこれから2週間の自宅学習期間を迎えるわけだが、普段より思い切った学習ができると思う。例えば不得意分野などは「それを毎日集中して攻める」というやり方もいい。最後に「充実した夏だった」と思える夏にしてほしい。